エンパワーするNGO YWCA
京都YWCA
3
2021

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

3.11から10年目を迎えて
～福島支援プログラム参加者たちの声～

東日本大震災から10年の年月を長いと感じるか短いと感じるかは、人それぞれで本当に多様だと思います。放射能汚染のため多くの人が避難し、でも避難先も安全でない場合があったこと。敢えて踏みとどまった人たちや避難先でいわれのない差別に苦しんだ人たち。京都YWCAはなんとかこの苦しみや不安に寄り添いたいと、2011年の震災直後から支援プロジェクトを立ち上げました。様々に関わってきたメンバーの思いを、保養プログラムを中心に紹介します。

保養プログラムと福島への旅の思い出

原発事故のニュースを聞いたとき、「これは大変なことが起きてしまった」「放射能から子どもたちを守るために何かしないと！」という思いで、会員と職員が協力し2011年夏に福島の子どもたちのための保養プログラムを始めました。

私はそのときどきで自分ができる役目、ホームステイ受け入れや、ウェルカムパーティ準備、京都観光の付き添い、京都から東京までの新幹線の同行等々を担ってきました。もう6、7年前になりますが、初めて福島を訪問したことがとても大きな出会いになりました。保養プログラム参加者のお宅に泊まらせてもらい、福島市内を案内してもらいました。春には美しい桜が咲きみだれる信夫山、そこから見えたフレコンバッグの群れは今でもはっきり覚えています。原発事故以前の私にとって福島は縁がありませんでしたが、保養プログラムを通して出会った福島の子どもたちとその保護者との交流が与えられ、またいつか訪れたいという思いでいます。

（木戸さやか）

「京都で進学」プログラム――中高生との出会い

2015年春から「京都で進学を」というプログラムを行いました。中高生を対象にした保養プログラムは少なく、進学に関心のある親御さんからは喜ばれました。大学の進学を京都にすると長期の保養ができるのではないかと考えたこともこのプログラムのきっかけです。2019年春には京都YWCAのあじさい寮の留学生、日本語の勉強に来ている外国籍の子どもたちも参加。福島の中学生A君は目指す学部が大阪にあり参加しました。ウェルカムパーティでは低学年の外国籍の子どもと追いかけっこをするなど、すぐに誰とでも打ち解けていました。その後もA君は夏に「日韓ユースプログラム」やコロナ禍で企画した2020年9月の「オンライン同窓会」にも参加の申し込みをしてくれました。関西の大学生になったら、A君の元気な顔を見る日も来るかなと期待しています。

（松田千治）

チェルノブイリから福島へ
――放射能への恐怖に突き動かされて

1986年、京都から8000㎞離れたチェルノブイリで原発事故が起こり、「放射能が世界中に散らばってしまった。国境も何も関係ない」と当時1歳の子どもがいた私は、恐怖、不安を覚え一種のパニックになった時期もありました。再び2011年「ああ、原発事故が日本で起こってしまった」「原発＝核による発電なのだ」「そんなものを持っていていいのか」という声が政府に届いていなかったことを受け止めながら、自分にできることは何かと考え、世代を超えた仲間と活動し現在に至ります。試行錯誤しながら行った活動や思いが次の世代の人たちにも受け継がれていくことを願っています。

（弘中奈都子）

2012.7.23　福島駅に夏の保養プログラム参加者をお迎え

2012.7.7　福島支援のボランティア養成講座

2019.3.30　南禅寺にて

APT30 周年を迎えるにあたって

京都YWCAのAPT(Asian People Together)は外国にルーツのある方への支援活動を続けてきましたが、今年度の活動は全国一斉の緊急事態宣言下でスタートしました。感染対策を取り、対応する支援者の人数も工夫し、来所や同行を含めて必要な対応をできる限り続けました。APTで相談の多いDV被害はコロナ禍でも待ってはくれません。避難や離婚に向けての調停裁判など今までと変わりなく支援活動が続きました。

加えて、仕事が減って元々多くない収入のさらなる減少、地域でのさらなる孤立、日本語でのコミュニケーションが充分とは言えない親の下、家庭学習の環境に恵まれない子どもたちは休校措置によってさらに深刻な状況になるなど、コロナ禍は滞日外国人にも当然大きな影響を与えました。

そのような中で、多文化ルーツの子どもたちとその家族のためにいただいた助成金（公益財団法人 パブリックリソース財団内「J-Coin 基金」、三菱財団×中央共同募金会「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成事業」）や皆様からの寄付で、APTの相談者にも色々な生活物資を定期的に配布できていることに心より感謝いたします。

さてAPTは今年30周年を迎えます。このように長い年月に亘って活動を続けてこられたのは、この活動に意義を認めて、財政的に支えてくださるAPT維持会員や寄付者、京都YWCAの会員がいたからです。

この間外国人に関わるさまざまな法改正や新しい施策がありました。状況がよくなったと思えるものもありますが、今、大変問題になっている技能実習制度や特定技能制度などに見られるように、外国人を一貫して労働力としてのみ捉えることと、日本人としての血統へのこだわりという基本的姿勢には変わりがないように思われます。一方、地方自治体では外国人を住民として捉えた施策も進められてきており、京都府・市からの依頼や連携で動くことが格段に多くなりました。

京都YWCA・APT

その辺りを丁寧に振り返り、日本における外国人の現状と問題をさらに広く知ってもらうと同時に、今後のあるべき方向性を共に考える機会とするために、30周年記念誌を発行する予定で準備を進めています。

（神門佐千子）

シリーズ――

京都 YWCA100 年の歩み (1)

京都YWCAは2023年に創立100周年を迎えます。本号よりシリーズで、過去から現在までの京都YWCAの主な事業・活動を紹介しながら、100年の歩みを辿りたいと思います。

YWCAは、19世紀の産業革命時代のイギリスで、過酷な状況に置かれた女子労働者を支えるためにキリスト教徒の女性たちによって始められた運動です。その目は日本にも注がれ、女性宣教師たちが日本に派遣されました。1905年に日本YWCAおよび津田梅子を会長とする東京YWCAが設立され、その後、横浜、大阪、神戸にも設立されていきました。京都でも1918年に米国YWCAから2人が来日し、キリスト教徒の日本人女性たちと協働する準備期間を経て、関東大震災があった1923年に京都YWCAが設立されました。京都YWCAの黎明期は、外国人幹事たちの使命感に燃える献身的な働きと、それに触発された女性たちによって支えられました。

YWCAが催すバザーや英語教室、英文タイプ、洋裁、西洋料理、聖書学習などの教育事業がもたらす西洋文化は、新しい生き方を求める女性たちに歓迎されました。担い手の中心は家庭婦人でしたが、女性の職場での地位が低く社会的支援もない時代に、有職婦人部を設けて電話交換手、看護婦、事務員、工場労働者など働く女性を支援しました。旅行者のためのホステルを運営して外国人を迎え、比叡山に開設した夏の保養所は多くの女性たちに利用され喜ばれました。

次第に日本人職員（幹事）も育ち、1928年に現在の室町通の地に拠点を定めました。常に財政難に悩まされつつ、職員と会員が創意工夫して困難を乗り越えようとしました。

二・二六事件のあった1936年、単科講習方式の教育事業をひとつにまとめた学校づくりに奮闘し、京都府認可の「京都女子学院」設立にこぎ着けました。学院は料理など家政教育が中心でしたが、自治活動、社会見学、施設奉仕など当時としては先端のカリキュラムを用意し、滝川事件＊で有名な滝川幸辰氏による「婦人と法律」講座をはじめ、一流の講師陣を迎えて充実した学びの場を提供しました。

＊滝川事件　1933年、鳩山一郎文相が京都帝国大学法学部の滝川幸辰教授をその著『刑法読本』や講演内容が赤化思想であるとして罷免した事件

設立当初の京都 YWCA の職員たち

ベルギーからの便り④（最終回）

若者世代に広がる過去の植民地化を問う運動

ベルギー在住の京都 YWCA 会員、上羽郁子さんが見たヨーロッパ事情をシリーズで報告していただいています。

コロナ禍で外出規制が厳しい中、ベルギーでは警察の取り締まりが過剰となり、警察による暴力と対応（不明確な逮捕など）が問題となっています。昨年、アメリカで黒人男性ジョージ・フロイドさんが警察による暴行で命を奪われ、その後、人種差別反対運動が広がっていったことはみなさんの記憶にも新しいと思います。ベルギーでも特に若者世代に運動が広がり、過去の植民地化を問う運動へと発展していきました。ベルギーのあちこちの街に現存するレオポルド二世（コンゴ植民地支配を進めた国王）の銅像の撤去を、14 歳の青年が呼びかけました。運動は、みるみるうちに多くの市民を巻き込み、アントワープやゲント市にあった像が撤去されるまでにいたりました。また、連邦議会では野党と市民の声が届き、コンゴでの植民地時代の過去を調査し、責任を問う委員会が設置されました。

今年 1 月には、アフリカの民族運動指導者、パトリス・ルムンバ（コンゴ独立初代首相）がベルギーとアメリカ CIA の陰謀により暗殺されて 60 年を迎えました。彼を追悼するとともに、ルムンバ暗殺に深く関わった一人が、現在もベルギーを代表する文化ホール BOZAR（ボザール）の理事を務めているとして、彼の退任を求める署名キャンペーンが始まりました。

アフリカ奴隷制や、植民地時代にゴム、鉱山、その他の自然資源をベルギーに持ち帰ったことで利益を得た企業や個人は、今もその資産で経済的に裕福な生活を継続させています。

京都 YWCA によく出入りしていた学生の頃、「マイノリティ」から見た歴史を学びました。第二次世界大戦中の日本のアジア植民地支配とベルギーのコンゴ植民地時代の構造が重なります。そして今でも未解決にある歴史の責任は不平等と差別を残していると思うのです。

ルムンバ暗殺 60 周年の追悼集会。ブリュッセル市内のルムンバ広場にて。ルムンバの肖像と言葉「尊厳がなければ自由はない」を持って。（私と一緒に活動する女性です）

4 回にわたり、私が考える「ベルギー事情」を書かせていただきました。いつか、みなさんと日本で、ベルギーで、お会いできることを楽しみにしています。

シリーズ「あじさい保育園だより」④（最終回）

子どもたちの笑顔に支えられた 1 年目を終えて

多くの方の祈りと協力の下、あじさい保育園の初めての 1 年が終わろうとしています。

ただ、終わると同時に始まりでもあります。1 年の終盤を迎えつつ、次の 1 年の準備を同時並行で進めなければなりません。保育園は日祝、年末年始の決められた閉園期間以外は、1 日 12 時間、たえまなく子どもたちを迎え、保育が行われます。それは、子どもたちの成長を考え、日々の保育を実践する保育者、給食を担う職員の働きに支えられています。子どもたちは日々、様々な遊びや制作活動を経験し、新しい気づき、発見を繰り返しています。保育室の遊具、園庭のミカン、御所の松ぼっくり、玄関の時計の数字からも子どもたちの想像の世界は広がり、お話しが生まれ語ってくれます。「どうしてどうして」の質問に答えることもあれば、一緒に「どうしてかな？」と考えてみる。先生にわがままを言ったり、甘えたり。友だちと一緒に遊んだり、ケンカもしたり。そんな毎日を重ねながら子どもたち同士、保育者と子どもたちの関係は深まり、1 年間ともに成長してくることができたのでは思います。

決して派手ではない毎日は、同じことの繰り返しのようで 1 日も同じ日はありません。上手くいったと思える日もあれば、なぜ？と頭を抱える日もあります。保育者の働きを支えているのは、やはり子どもの笑顔、成長です。どの保育者も異口同音に「子どもたちから力を得る」と言います。私もまたその一人です。

2 月 11 日には保育園の全職員を対象として「キリスト教保育」の研修会を持ちました。室町教会の浅野牧師からはキリスト教の一番大切なポイントは誰もが神から愛されている大切な存在であること。一人ひとりをそのまま受け入れてくださるのが神であること。山本総幹事からは YWCA の事業は、共通して誰もが受入れられるセーフスペースであること。東京 YWCA まきば保育園の大沢園長からは子ども一人ひとりの成長とその選びを信じて待つことの大切さについて話していただきました。「これをすればキリスト教保育」という正解は無く、あじさい保育園は、これからもキリスト教保育が何か、また YWCA らしい保育園は何かを、会員の皆さまも含め、働く方たちと共に子どもたちを真ん中に考え実践していきたいと思います。

御所でさんぽ

あじさい保育園の 1 年を支え祈り見守ってくださった全ての方に、この紙面をかりて心から感謝を申し上げます。　（井上依子）

今後のプログラム

◎第 99 回定期会員集会

■ 2021 年 3 月 6 日（土）13：30 ～ 15：30
■主　　題：「希望はわたしたちを欺くことはありません」
（ローマの信徒への手紙　5 章 5 節）
■参加方法：オンラインまたは来館
■内　　容：2020 年度の活動・事業報告および発題
2021 年度活動計画等は事前に書面決議

「京都 YWCA 未来応援募金」への ご協力のお願い

新型コロナウイルス流行により、京都 YWCA が日頃地道に取り組んできた事業が大きく影響を受けています。これを克服して事業を進めていくための「緊急支援募金」を含め、3 つの未来応援募金を実施しています。
皆さまからのご支援をお願い申し上げます。

◎未来応援募金――緊急支援募金（目標 150 万円）
新型コロナウイルスの影響を乗り越えていくために。
◎未来応援募金―保育園備品募金（目標 120 万円）
園児の健やかな成長に応じての備品購入に。
◎未来応援募金―ユース育成募金（目標 80 万円）
国内外のプログラムへの若者の参加支援などによる次世代育成。

郵便振替　01080－9－1566
加入者名　公益財団法人京都 YWCA

＊通信欄に未来応援募金の中の指定する募金名をご記入ください。
京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせていただくか、ホームページをご覧ください。
http://kyoto.ywca.or.jp/support

★テレビで見かけた話題の文具
★行事で使うノベルティ商品
★プレゼントに適した商品

事務機・事務用品の事ならなんでもご相談下さい。

SYOBIDO FOR OFFICE AMENITY 株式会社 正美堂

京都市中京区壬生坊城町25番地
TEL：075-841-4371　FAX：075-811-6590
URL：http://www.syobido.jp/
阪急電車京都線「大宮駅」下車
西出口から出て、四条通り沿いに徒歩４分（北側）

ご協力ありがとうございました

2020年12月1日から2021年1月31日　寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付
吉田紀子、伊原千晶、岡佑里子、船山昌代

各指定寄付
＊未来応援募金
・緊急支援
岡佑里子、弘中奈都子、篠田茜、上村達郎、中村美智子、日明公子、平野晴美、平野冨希、木戸さやか、下村泰子、河野伴子、宮武恒夫・美知子、鍛冶冨美子、池上信子、筒井奈都子、匿名、別所加恵、有田孝子
・ユース育成
山本千鶴、勝山久仁子、小林聡、入順子、平安女学院中高宗教センター
・保育園備品
岡佑里子、篠田茜、平野裕之、別所加恵、有田佳子

＊親・子育ち支援活動委員会
平野晴美、別所加恵、匿名

＊多文化共生委員会
宮武美知子、横江美佐子、浅野献一、一色光世、御前明美、田中順子、冨田京子、同志社中学校・高等学校

＊ APT
ヘイナ啓子、マーサ・メンセンディーク、阿久澤麻理子、安藤いづみ、宇山進、金光朋充、山下真、篠田茜、上原従正、上内英子、神門佐千子、青木理恵子、石井ゆき、大手理絵、大畑京子、池上信子、中村和雄、田中康司、土田亘、北垣由民子、林律、髙山亨、上村兪巳子、杉山知子、菅原充子、西原美那子、青木信雄、大津恵子、中川美佳子、ヌヴェール愛徳修道会、京都ノートルダム教育修道女会、錦林教会・ペスタロッチ保育園、希望の家カトリック保育園、京都・東九条 CAN フォーラム、匿名

＊平和・環境部委員会
佐野千枝子

＊活動グループ
三ツ谷直子

＊うららかふぇ
宮武美知子、河野伴子

＊保育園
在日大韓基督教会京都東山教会

＊自立援助ホーム「カルーナ」
安藤いづみ、伊原千晶、横江美佐子、山上義人、小林聡、松岡由香子、清水義、石田裕明、大山悠子、竹岡哲朗、中野かおり、文田則子、平野裕之、有田佳子、澤井聡子、齋藤大輔、若尾典子、岡佑里子、宮武美知子、内田匡子、木戸さやか、マーサ・メンセンディーク、イエニックふたみ、上村兪巳子、榎本愛美、井上悦子、神門佐千子、岩崎明生、松田千治、入順子、井上摩耶子、吉田紀子、斉藤洋子、小宮一子、伊東真喜子、匿名、室町教会オリーブ会、日本キリスト教団京都教区京都南部地区、日本キリスト教団京北教会、日本聖公会聖アグネス教会、平安女学院中高宗教センター、京都府更生保護女性連盟、聖セリシア会、社）西陣会

＊賛助費
中村和雄、中村美智子、吉田繁、半田淳子、浅野久代、永山悦子、佐伯昌和、長谷邦彦、小川久美子、佐野千枝子、松永公子、㈱田中工務店

1・2月／理事会報告

- 1/9：自立援助ホーム「カルーナ」の新成人を祝う会を感染防止処置をとりながら開催。（京都わかくさねっとが振袖着付けで協力）
- 1/14 以降：新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を受けて貸室停止、入館者制限、外部からのカフェ利用停止など会館利用の基本方針を決め実施。
- 1/23：自立援助ホーム「カルーナ」利用者対象に「性と生殖に関するお話会」実施。
- 2/11：あじさい保育園の全体研修会「キリスト教保育について」実施。
- 2/11：2.11 集会「皇室の女性とジェンダー～多世代で語り合う日本のジェンダー問題～」開催（オンライン）。
- 2/27：「3.11 から 10 年　喪失の先に浮かび上がるもの」福島県浪江町生まれの井上美和子さんの朗読を聴く会開催（オンライン）。
- ミッション推進会員活動のこれからの 4 カ年計画について協議。次年度「ユース委員会」と「100 周年実行委員会」を新設。

ＫＹＯＴＯ　ＹＷＣＡ　No.561　2021 年 3 月号（3月1日発行）
発行人：上村兪巳子
発行所：公益財団法人京都 YWCA
〒602-8019
京都市上京区室町通出水上ル近衛町44
電　話：(075)431－0351
ＦＡＸ：(075)431－0352
e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp
ＨＰ　：http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替：01080－9－1566
口座名義：(公財)京都 YWCA
定　価：1 部 50 円
発　行：奇数月 1 日発行